Nontypeable *Haemophilus influenzae* による垂直感染の 1 例

◎高野 翔平[1)]、福島 由美子[1)]、関口 芳恵[1)]
総合病院土浦協同病院[1)]

【はじめに】Nontypeable *Haemophilus influenzae*(NTHi)は一般的に呼吸器系感染症の原因になると考えられてきたが、侵襲性感染症の報告が増加している。今回我々は垂直感染による侵襲性 NTHi 感染症を経験したので報告する。【症例】母は 40 歳代、2 経妊 1 経産。凍結胚盤胞移植後妊娠。妊娠 12 週の妊婦検診にてクラミジア抗体 IgG(+)、IgA(+)がわかり AZM を内服した。妊娠 28 週 1 日に微熱を自覚し、翌日には腹痛が増強したため救急要請したが、自宅分娩となりその後当院に搬送された。入院時体温 36.2℃、脈拍 95 回/分、採血では CRP15.35mg/dL、白血球数 32540/μL と炎症反応を認めた。微生物検査では膣分泌物培養が採取された。胎盤、臍帯が病理組織検査に提出され絨毛膜羊膜炎、臍帯炎と診断された。児は出生体重 1226g 女児。入院時の Apgar スコア（1 時間）4 点、リトラクションスコア 8 点。体温測定不能、脈拍 106 回/分、採血は CRP2.39mg/dL、白血球 24590/μL であった。早産により呼吸障害を起こしていることから挿管管理となった。全身状態不良のため咽頭粘液、鼻腔粘液、便、臍、外耳、気管内吸引、血液培養を採取して ABPC＋CTX で加療を開始した。感受性判明後 ABPC 単独へ変更し、日齢 10 まで投与継続した。壊死性腸炎や慢性肺疾患なども発症したが、症状は改善傾向となり日齢 112 に経過良好のため自宅退院となった。【微生物検査】母の膣分泌物と児から採取したすべての検体より β ラクタマーゼ陰性 ABPC 感性の *H. influenzae* が検出され、後日無莢膜型と判明した。また母子それぞれの菌株の PFGE 解析を行いパターンが一致していることを確認した。【考察】今回は膣分泌物培養からも優位に NTHi を検出していたことより、膣に付着した病原菌が上行し子宮内感染に至ったと考える。絨毛膜羊膜炎は早産を引き起こす原因とされ、母子へ影響を及ぼす。また、妊婦では非妊婦と比較して NTHi による侵襲性インフルエンザ菌感染の発生率比が高いとの報告がある。このことから妊婦検診で *H. influenzae* を検出した際には無莢膜型による子宮内感染症をおこす可能性も念頭に置き検査を進め、莢膜型の同定をすることも重要と考える。

（連絡先 029-830-3711 内線 4524）